

新たに受入れた岡村昭彦関連資料について(1)

－ 岡村昭彦が少年雑誌に書いた作品 －

比留間 洋 一

新たに受入れた岡村昭彦関連資料について(1)

－ 岡村昭彦が少年雑誌に書いた作品 －

比留間 洋 一

本稿は、静岡県立大学附属図書館及び筆者（静岡県立大学岡村昭彦文書研究会世話人）が、岡村春彦氏（岡村昭彦の令弟）から新たに受入れた岡村昭彦（1929～1985、国際報道写真家）関連資料の概要を紹介するものである。今回はとくに、著作集にもほとんど収録されていない、岡村昭彦が少年雑誌に書いた作品に焦点をあてる。

2010年3月15日（月）、時事通信社2名、PANA通信社1名、筆者の4名で、東京調布に岡村春彦・雅子夫妻のご自宅を訪ねた。用件は、ご夫妻宅に残された岡村昭彦関連資料を調査するためである。資料は大別すると3種類あった。第1に、岡村昭彦が国際報道写真家として遺した大量の写真フィルムである。この写真フィルム調査の為、翌日東京都写真美術館が岡村春彦氏宅を訪問。その結果、東京都写真美術館が引き取り、保存、数年かけて内容を精査することになった。第2に、岡村家に関する文献資料（祖父にあたる岡村輝彦が学長を務めた中央大学関係資料などを含む）があった。これは静岡県立大学附属図書館岡村昭彦文庫に掲示される予定である。第3に、①岡村昭彦による著作コレクション、及び②その他関連資料があった。②には、岡村昭彦を紹介した新聞記事や、書簡（岡村昭彦から母親の順子に宛てたものや、筑豊の上野英信（1923～1987、筑豊炭鉱の記録文学者）・晴子から順子に宛てたものなど）、講演録音テープとテープ起こしされた原稿などがあった。その全貌は別稿で明らかにする予定である。

上記した資料をもとにして、すでに岡村昭彦の没後（1985年）、岡村春彦氏・暮尾淳氏編集による岡村昭彦集6巻（筑摩書房、1986～1987）や、同両氏監修、杉岡博隆氏・米沢慧氏編集による『岡村昭彦報道写真集』（講談社、1986）が世に送り出され、さらに「万巻の書を読み千里の道を往った者」¹ といい表すことのできる、岡村昭彦の足跡が年譜や岡村昭彦集の解題として整理されている。

今回の資料受入はそのことを承知した上で行われたのだが、静岡県立大学が受入れ

1 「父はかねがね「友とするなら、万巻の書を読み千里の道を往った者を選ぶべし」と訓戒を垂れていた
ので、その基準に照らせばこのネコは大合格だったのだろう。」（上野2000:51）。ここでネコとは、岡村
昭彦の上野英信宅におけるニックネーム「岡村ネコ、ネコちゃん」を指す（上野2000:50）。

た資料には少なくとも次の2点の価値がある。

第一点目は、各種メディアに発表した当時の著作が、相当ていど網羅的に揃っていることである。この著作コレクション受入により、静岡県立大学は、岡村昭彦が収集した1万6000冊以上の図書を一堂に収めた岡村昭彦文庫に加えて、もう1つ貴重な岡村コレクションを有することになった。

第二点目は、その中に、著作集に収録されていない著作が含まれていることである。その中でも、とりわけ筆者の関心を引いたのは、岡村が子ども向けに書いた著作群の存在である。これまで没後に再録された子ども向けの著作はわずかに次の2点であった。

- ①「忘れ得ぬヴェトナムの少年」『高二時代』、1966年10月（岡村昭彦集第1巻に再録）
- ②「この目でみたベトナム戦争」『学習』学研発行、1965年2月号（『シャッター以前 vol.5』岡村昭彦の会、2010年、川島書店、p.110-116）³

『南ヴェトナム戦争従軍記』の産婆役を果たした上野英信の解説には次のような岡村自身の言葉と子ども向け作品の価値について記されているが（上野1986:480）、今回、その作品群を初めて目の当たりすることができたのである。

1964年夏、ベトナムから日本へ舞い戻った岡村昭彦は上野英信の家で従軍記の執筆にとり組んでいた。（下線は引用者が付した）

「いやだな、こんなものをいくら一生懸命に書いたって、なんの役にもたちゃしない。骨折り損のくたびれもうけだ。いっそ苦勞するんだったら、やっぱり子どもたちが読んでくれるものですよ、上野さん、日本の作家というやつらは、どうして一番いい作品を少年雑誌に書こうとしないんでしょう。『世界』や『中公』から未来が生まれるとでも思っているのでしょうか。子どもを忘れた民族や国家なんて、ほろびてしまいますよ。ね、せめてぼくたちだけでも、真剣に子どもの読みものにとり組みましょうよ。」

そんなとき、彼の血走った眼は、斬りこむように鋭かった。そしてそんなとき、彼の心は矢のようにヴェトナムの子どもたちのもとにとんでいた。じっさい、彼は、もうとっくに締切りがすぎた従軍記の原稿に追いまくられながら、『少年マガジン』や『高二時代』などという雑誌の原稿だけには、どんな精力も時間も犠牲も惜しまなかった。ことばどおり、彼はもっとも真剣にとり組み、そんなときだけ彼はもっともたのしそうであった。作品もまた、もっともいきいきとしていた。彼の最上の作品の幾つかは、大人向けの一流雑誌よりも、むしろ少年雑誌のなかに求められな

3 『学習』は岡村春彦氏宅の著作コレクションには所蔵されていなかった。また、米沢慧氏は次のように述べていることを参考までに引用しておく。「なお、今号では、かつて「小学生向けの文を発表したことがある」と岡村が語っていた文章をついに入手掲載することができた。」（『刊行にあたって』『シャッター以前vol.5』2010年）。

研究ノート・資料

ければならぬ。そしてこのことは、いうまでもなく、岡村にとってなによりも大いなる光栄でなければならぬ。

以下が、今回静岡県立大学附属図書館が新たに受入れ、近いうちに公開する予定の、岡村昭彦が少年雑誌に書いた作品一覧である。

通し 番号	年	掲載紙	月日	頁	タイトル	備考
1	1964	少年マガジン	10月1日号	72～75	これが戦争だ！ 日本人記者のベトナム従軍記／第1回	
2	1964	少年マガジン	10月18日号	74～76	これが戦争だ！ 日本人記者のベトナム従軍記／第2回	
3	1964	高二時代	11月	46～53	動乱のベトナム最前線に行く	
4	1965	少年マガジン	3月14日号	60～63	ベトナム戦争を取材する決死の日本人記者！	岡村を紹介
5	1965	ボーイズライフ	8月	83～89	ベトナム戦に命をかける日本人カメラマン	写真あり
6	1965	ボーイズライフ	9月	7～13	血と泥	オールカラー 写真
7	1965	ボーイズライフ	10月	92～97	日本人カメラマン 岡村昭彦 ベトコン潜入記	
8	1966	希望の友	4月	51～55	世界を駆ける日本人：泥沼のベトナムに潜入したカメラマン	岡村を紹介
9	1966	高二時代	10月	136～142	忘れ得ぬベトナムの少年	岡村昭彦集に 再録
10	1966	高3コース	10月	2頁分	真実を追究する報道写真家+受験生へのメッセージ	インタビュー 記事
11	1967	高1コース	4月	126～127	私はこうして自分の才能を発見した	
12	1967	中三時代	9月	134	真実に近づく苦悩のはてに	
13	1968	高1コース	1月	90～91	体験的オオカミ論 真実をこの目で確かめたい	
14	1968	高2コース	4月	180	ベトナムに同情の空涙は無用だ	
15	1968	高1コース	5月	265	今月おすすめる本「ガリバー旅行記」	
16	1969	高一時代	12月	258～265	私は見た飢餓の中のビアフラ独立戦争	
17	1969	少年サンデー	11月9日	全15頁	ビアフラの悲劇	写真が大部分
18	1970	高1コース	1月	134～138	われらに自由を！抑圧された民族の叫び	北アイルランド

引用文献

- 上野朱 2000 『蕨の家 上野英信と晴子』海鳴社
上野英信 1986 「解説」『岡村昭彦集1』筑摩書房、476-487
岡村昭彦の会 2010 『シャッター以前vol.5』川島書店